

当院における *Clostridioides difficile* の薬剤感受性の検討

◎後藤 宏次<sup>1)</sup>、小柳 紀人<sup>1)</sup>、鈴木 健之<sup>1)</sup>、上村 桂一<sup>1)</sup>  
掛川市袋井市病院企業団 中東遠総合医療センター<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

*Clostridioides difficile* は偏性嫌気性グラム陰性桿菌で、*C. difficile* 感染症(CDI)の原因菌である。日本化学療法学会の「*Clostridioides difficile* 感染症診療ガイドライン」では非重症の CDI 治療の第一選択薬にメトロニダゾール(MNZ)、第二選択薬にバンコマイシン(VCM)が推奨されている。

今回、当院における *C. difficile* に対する MNZ、VCM の感受性を検討したので報告する。

## 【対象と方法】

2018年1月～2019年5月までの間に当院にて便検体から分離された *C. difficile* 42株を対象とした。同定は MALDI Biotyper (ブルカー) を用いて行った。

感受性測定法は EUCAST に準じ E-test 法を用い、薬剤は MNZ と VCM の 2 薬剤とした。

被検菌株をコロニア羊血液寒天培地 (BD) にて前培養後、嫌気性菌用 ABCM ブロス (栄研化学) に McFarland No.1 となるよう菌液を調整した。ブルセラ HK 寒天培地 (極東製薬) に菌液を塗布し薬剤感受性用 ETEST® (ビオメリュー) ストリップを培地上に配置した。培養は 35°C、嫌気条件下にて行い、48 時間後、MIC を判定した。

MIC の判定は培地上に形成された阻止帯の終末部とストリップとが交差した位置の目盛りを MIC として目視判定した。

カテゴリ判定は EUCAST Clinical Breakpoint Tables v9.0 に準じた。

## 【結果】

MIC 分布は MNZ が 0.125µg/mL 23 株、

0.25µg/mL 18 株、0.5µg/mL 1 株だった。

VCM は 0.25µg/mL 4 株、0.5µg/mL 34 株、1µg/mL 4 株だった。

EUCAST の基準では MNZ、VCM ともに MIC ≤ 2µg/mL を感性と規定している。対象の 42 株はすべて MNZ、VCM ともに感性であった。

## 【まとめ】

今回、検討の *C. difficile* 42 株は MNZ、VCM ともにすべて感性であった。

日本化学療法学会の「*Clostridioides difficile* 感染症診療ガイドライン」では非重症の CDI 治療には MNZ、VCM が推奨されている。今回の検討で耐性株はみられなかったが、欧米では MNZ 耐性株、VCM 耐性株の報告があるので、今後も *C. difficile* に対する MNZ、VCM の感受性検査を行うことは耐性菌の検出に有用である。

連絡先：0537-21-5555 (内線 2214)